

第2章

浜須賀地区の地域活動

「つながりの輪を広げることが、浜須賀地区を支える力になる！」

地区支援チームを中心に「浜須賀地区の人たちがどのような困りごとを抱えているのか」について考え、だれもが「その人らしい生活」ができるようにさまざまな専門支援機関や活動団体との新しい関係づくりを進めています。



1. 浜須賀地区の概要

浜須賀地区は茅ヶ崎市の南東に位置し、南側は海に面した明るいエリアです。

茅ヶ崎駅周辺の中心街からは少し離れ、海岸のメインストリートからは少し中に入っていることもあり、比較的落ち着いた雰囲気のあるところですよ。

特徴1

地区内の大部分は住宅地。
現在は、数年前に新設された1つを加えた12自治会で構成されています。

特徴3

地形的にも平らなため
住民の主な交通手段は
自転車。

主要な交通網としては、JR
茅ヶ崎駅と辻堂駅が生活圏で、
その2駅間を結ぶバス（神奈中）
が地区を横断
しています。



J R 東海道線



特徴2

スーパーは隣接地区を含めて4
つほど。
買い物には自転車や自家用車で
出ている様子が見られます。
大型店舗はありませんが、パン
屋さん、アパレル系、趣味の雑
貨やお教室その他、小さな中にも
雰囲気の感じられる店舗など
があちこちに見られます。

特徴4

主な公共拠点としては
浜須賀会館があります。

*古くて 新しいまち

浜須賀は、歴史の面影と若々しい雰囲気を合わせ持つ地区です。

海を臨み、大きな家屋敷の名残りが伺えるような構えの家並みがあります。

ずっと砂浜だったことを物語る砂地や松の並ぶ緑地などの中に、行き交う人のゆったりした流れ
が感じられ、かつて「湘南の別荘地」と呼ばれた姿を垣間見るような雰囲気もあります。

一方、茅ヶ崎は、東京へも1時間の地の利から、近隣都市で働く人のベッドタウンでもあり、
浜須賀は特に、新しく開けた商業地にも近く、沿線2駅を利用可能など、その生活環境から若い
世代の増加も見られ、近年、隣接地区と合わせて小学校が増えるなど、まさに暮らすまちという
様相です。生活圏内である辻堂エリアの開発も加速する中でマンション等も増えており、新しい
世代の流入から人口も少しずつ増えている新しいまちの一面もあります。

日中は地区外で活動に参加したり、買い物に出かけるなどして過ごし、また家庭・住まいに戻
ってくる…というように、1日の中での人口移動も多い印象の地区です。

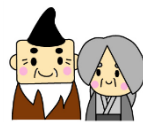


*「住んでいてよかったまち」を目指して

最近見えてきている一面は、単身世帯の増加傾向。地区内およそ5,400世帯の
うち、700世帯近くが高齢者を含む独居世帯です。また、急速な高齢・単身化により、施設や
交通の便のよい駅前に引っ越すなど、空き家なども見られる状況もあります。

浜須賀は長いこと、自治会や子どもを介したつながりを中心に、地区の活動が育ってきた経過
がありますが、この10年のうち「お互いができることをしながら、いつまでもここに暮らしたい」
という思いからの新たな活動が立ち上がり、根付いてきています。

そういった活動や場を通じて出会うことで、長く暮らしてきた人も、新たに地区に来てくれた
人も、ともに安心な普段からのつながりを作っていくことができる「住んでいてよかったまち」は
ますか」を目指しています。



*浜須賀福祉活動あれこれ

浜須賀は、公共施設や活動拠点があまり多くない地区ですが、以前から浜須賀会館を拠点に地区のさまざまな活動が行われてきました。

その中で、自治会や民生委員児童委員、その他の地区団体との協力のもと、地区社協は福祉活動を中心に担っています。ここでは、地区社協の取り組む福祉活動を紹介します。

ふれあい昼食会

浜須賀地区社協では、77歳以上の方を対象に手作りの食事会「ふれあい昼食会」を開催しています。

その食事作りは「えにしだ会」というボランティアグループが25年間担当しています。

29名の会員が3班体制で、年8回の昼食会の食事を作ります。



自治会別の来場者数に合わせてですが、1回に60食以上作ることも。

温かい食事を皆さんでいただく憩いのひと時。

そんな場面に彩を添えられたらと、準備やリハーサルを重ねて、季節に合った工夫を凝らして作っています。

サロンはますか 毎月第2・4金曜日 10:00～14:30 浜須賀会館

平成15年3月、“出かけていただく場づくり”としてスタート。早11年目の活動です。

参加は年齢を問わず、生後2か月の赤ちゃんから、80代のご婦人までが集います。

シニアの皆さんは、簡単な手作り品の作成や折紙をしながらボランティアさんとおしゃべりタイム。



ママたちには、友だちづくりや情報交換の場にもなるでしょう。サロンのボランティアメンバーには、子育てアドバイザーもいますよ！

ちびっ子たちには、お隣の保育園から来てくださる先生との遊びが楽しみです。

お昼になると、人気の手作りお味噌汁が登場！ボランティアの家庭菜園の野菜をいただいて手作り。みんなで食べて、お野菜を食べるようになったお子さんもいるそうです。

浜須賀は、長い間、他の地区のような地域でのボランティア活動グループや、サロンなどがなくきた地区でしたが、この10年の間には新しい活動が生まれ、これまでかかわりのなかった層の人たちが、地区の福祉活動に参加している様子があります。

こうした動きの中で、このコーディネーター配置事業を機に、地区のさまざまな団体ともつながりを深め、新しい動きが見えてくる可能性もあるかもしれません。

2. 地区支援チームのコーディネーターたち

サポートはますか (平成15年6月発足)

誰もが地区で安心して暮らしていけるよう、住民同士の支え合いを目指した活動として、立ち上がりました。

約60名のメンバーで、高齢や病気、出産・育児中などの理由から支援が必要な方を対象に、日常のちょっとした困りごとの手助けをしています。

依頼はさまざま…草取り、掃除、お話し相手などのほか、お母さんが受診の間、お子さんを事務所で預かり…という活動もありました。

また、公的制度では対応できない部分を、専門の窓口の方と相談をしながらお手伝いしている例もあります。

この活動も11年目になりますが、こうして長く続いてきた背景には、1年という準備期間をかけて住民同士が話し合い、作り上げた活動であるということがあると思います。

「サポートはますか」は、お願いする人も、活動する人も同じ地区の人。

それぞれが“お互いさま”の気持ちで、仲間とのふれあいを楽しみに、やりがいを感じて活動に参加しています。



古谷 宏さん【地区活動コーディネーター】

私たちは日頃、浜須賀地区に住む住民として、地区ボラセンを中心にボランティア活動や自治会、地区社協活動に参加しています。コーディネーター配置事業にかかわる上で、そうした普段からの地区のつながりを大事にしたいと心がけています。

習田 祐子さん【地区活動コーディネーター】

この活動で感じられたのは、地区支援ネットワーク会議でさまざまな立場が顔を合わせて話し合うことで「解決の糸口が見つかること」、「地区を窓口で専門機関につなぐことができること」、そして「私たち自身も安心して相談が受けられること」が、この事業の良さだということです。

また、こうした連携の中で、地区ボラセンへの依頼1つにも、その人が何を望んでいるのか、どんな生活をされているのか…など、以前より深く相手に目配り・心配りできるようになってきています。

地区という身近な場で、一人ひとりにいかに寄り添えるか、時間がかかっても安心や信頼を感じてもらえるか、同じ地区で顔が見えるからこそ、少しでも負担を軽く、心豊かに過ごしていただけるように、これからも努めていきたいと思っています。

なお、毎月第1水曜日9:30~12:00は「福祉なんでも相談」をお受けしています。私たちが「サポートはますか」の事務所におりますので、お気軽にお電話・お訪ねください。

福祉相談室あさひ

福祉相談室は、平成 23 年 10 月から市内の地域包括支援センターの中に設置されています。地域包括支援センターとの大きな違いは、「高齢者」にとらわれない「子ども」や「障害」の初期相談にも応じるという点が挙げられます。初期相談といっても、その場で解決してしまう内容もあれば、問題が多く、長期間かけて解決策を一緒に考えたり、適切な相談機関や地域支援団体に橋渡しをしたりすることもあり、さまざまな人と連携する地区の福祉窓口としての役割があります。



永田 亮さん【地区支援コーディネーター】

コーディネーター配置事業を通して、各コーディネーターの考えや地区で気になることなど、さまざまな意見を聞く機会があります。また、地域課題や個別ケースの新しい情報などの具体的な点を知る場ともなります。これらの事は、専門職としてより住民に近い視点を持つきっかけとなり、日頃の業務の中でもそれを踏まえた上で、専門的な支援にあたることができます。住民の目線から物事を見ることができないと、より良い地域支援は難しくなります。

この事業は、地域支援団体と専門職が協働できる場、誰でも活用できる社会資源の 1 つとも言え、新しい取り組みや個別ケースの検討を継続していく中で、最終的にそれが住民の安心感や地域力の向上に結び付くといった効果が得られるのではないかと感じています。

茅ヶ崎市社会福祉協議会

社会福祉協議会は、地域福祉の向上のために活動する組織です。

そして、私たち茅ヶ崎市社会福祉協議会（市社協）は、その大きな使命のもと、「茅ヶ崎がいつまでも安心して暮らせるまちであるために、どんなことが必要か」を住民の皆さんと共に考え、取り組んでいます。

この「コーディネーター配置事業」も、その取り組みの中の 1 つ。

地区の持っている力、地区内にある困りごとなどを他のコーディネーターと共有し、その解決に向けた活動の中で、主につながりづくりを担います。



加藤 絵里さん【コミュニティソーシャルワーカー】

この事業にかかわり、「実感が人を動かすんだな」という思いをまた強くしました。

困っている人の姿が見える。連携する者同士が持てる力を見せ合えば、新たな支援の可能性が見えてくる。そして、こうしたチームの動きに触れた周囲が変化し、協力者が増えてくる…これらは地区支援ネットワーク会議を通じた私の実感ですが、他のコーディネーターの中にも、各々の形で感じられたからこそ、この間の活動が進められたのだと思います。

実感に基づく支援の輪を広げることができ、地区で作るその輪に地区自身が支えられることになる…これを皆さんが感じられるように、これからも活動したいと思います。

3. 浜須賀地区の取り組み

私たちは、地区支援ネット
についての理解を進めることが
を考える場を持つことができ
これまでに浜須賀で進めて
思われているかもしれません

(1) 地区懇談会の開催をきっかけに

「住み慣れたまちの地域福祉を考える 地区懇談会」の開催に協力

地区支援ネットワーク会議は、相談事例の共有など
から、地区の課題が集まる場と言えます。

この特徴を活かし、「地区に住む人たちと課題や気づきを共有
する場づくりに協力できないだろうか？」と考え、地区社協に提
案。平成 23 年度から協力して開催してきました。

「子育て支援」をテーマに、2年連続開催しましたが、そこ
からまた、新しいつながりや、新しい取り組みのヒントが見つかる
意見がたくさん交換されました。

次へのヒント

平成 24 年度の地区懇談会で…

「浜須賀にも色々活動があるのに知らなかった」

「他の団体の行事なども、もっと知りたい」

…といった意見が多く聞かれました。

次へのヒント

平成 23 年度の
地区懇談会で…

「保育園の『のびのび広
場』、利用が少ないなん
てもったいない！」

「私たちが何か協力でき
ないかな？」

…といった意見が
出ていました。

はますかふくし情報紙

「CoCo (ココ)」発行しました！

地区懇談会での意見をヒントに「情報の縦割りを
解消したら、地区内の各団体がもっとつながる
かも!」、「地区内のさまざまなイベントを知ること
ができれば、もっと近隣が交流できるんじゃない?」と、平成 25 年度は“みんなのための”情
報紙づくりを始めました。

まずは、地区内のイベント情報を、対象やジャン
ルで分けずに掲載して第 1 号を発行!

「いろんな情報が一度にわかって便利」という声
もあったとのこと。

また、情報集めにも各団体から協力をいただくな
ど、紙面づくりをきっかけに、つながりを広げて
います♪



* 資料編 93 ページ参照

ワーク会議を中心にして、浜須賀の人たちが“どのような困りごとを抱えているのか”にできたと感じています。また同時に、それらの解決に向けて“どのような支援活動が必要か”しました。

きた主な活動を、ご紹介したいと思います。この事業は、困難事例を扱うことが主な活動とが、安心できる地区づくりも大事な活動です。

コーヒーとお菓子を用意してお待ちしています♪

人気のボランティアさん手作りのお菓子です☆

**ママと子どもたちを
地区の人たちが笑顔で迎えます**

～浜須賀保育園「のびのび広場」～

地区懇談会で保育園の活動を紹介いただいた時のこと、「のびのび広場を実施していますが、利用はなかなか…」と先生から。地区懇談会の参加者からは「もったいない」、「でも、初めてだと入りにくいかもね」等の意見が出され、その後、まず始めてみよう！と、有志から「のびのび広場」のお手伝いが始まりました。

それから…

毎月第3木曜日の浜須賀保育園からは、地区の人たちと親子の明るい声がします。「こんにちは！いらっしゃい」、「私たちがお子さんを見ているから、ママは少しゆっくりして」、「迎えてくれる人がいたら、初めての扉も開けやすいでしょう」…

そんなあったかな活動が動き出してから、先生方も驚くほど、利用する親子もグ〜ンと増えました！

※のびのび広場…地域にお住まいの親子に対し、保育士が遊び場を提供する中で、育児相談にのっています。

お茶を飲みながら、子どもとほんのちょっとした時間なのですが、離れてホッとできたらいいかなと思い、『ホッとカフェ』を『のびのび広場』の中に入れました。
地区の方々がお手伝いに来て下さるのはとてもありがたいことです。

浜須賀保育園より



(2) 地区支援ネットワーク会議からつなが

施設訪問…おじゃまします！

地区支援ネットワーク会議は、地区ボラセン、福祉相談室、市社協の3者からスタートしていますが、「地区の課題を一緒に考えるチームの仲間を増やしたい」といつも考えています。そこで…施設訪問を計画！

平成24年度は、ある小規模多機能型施設へおじゃまし、私たちの活動を紹介しながら施設のことも伺いました。つながりづくりの機会として今後も企画したいと思いますし、こうした機会学んだことや情報は、地区の皆さんへもお知らせしたいと考えています。

地区を知るためにも、施設を訪ねて顔の見える関係が作れるといいね。

障害のある方にも寄り添えるように

地区支援ネットワーク会議では、コーディネーターが受けた相談のよりよい解決に向け、話し合いをしています。モデル期間で見えてきたことの1つに、病気や障害でお困りの方も、案外身近におられるということがありました。

そこで早速、市内4カ所の障害者相談支援事業所と交流会を開催！

障害のことを知り相談を受けやすくなるように、また、相談に必要な窓口へつなげるために…。職員さんともつながりができ、今後の協力も確認し合うことができました。

障害の相談も増えてきたから、対応や困った時の相談機関を知っておきたいね。

一人暮らしの人も多いね。この人たちが必要な情報って何かな？

浜須賀の福祉マップ…作ってみる？！

平成25年度の活動について話し合った時のこと、つながりづくりや地区を知る目的から「福祉マップ作り」の案が出ました。

この取り組みについて、他市や湘北地区の活動を参考に意見交換。

浜須賀でどんなマップが必要か考えると、「だんだん高齢者の独居が増えている」、「住所によってはスーパーも遠いよ」、「一人暮らしだと売っている食材は量が多くて」といった意見が…。

これをもとに、まずは買い物支援の視点から地区内の情報収集を始めることになりました。現在進行中の活動です！

りを広げよう

民生委員さんとも力を合わせて・・・

浜須賀地区で、私たちがこの事業の説明会を行った際、そのお話を民生委員さんが受け止めてくださいました。その後、「これからの地区にとって大事な取り組みになるから」と協力くださっています。

民生委員児童委員さんは、これまでも地区の人と福祉をつないできた要。ネットワークには欠かせない心強い存在です。地区支援ネットワーク会議でも気になることを共有できるようになると、互いに頼りにできる安心感と、地区の見守り体制に厚みが出たことを実感できるようになりました。

地区の人が、より安心して暮らすことができる浜須賀にするために、それぞれに持つ力を合わせています。



私たちはこれまでの活動から、「つながりの輪を広げることが、きっと浜須賀地区を支える力になる！」ということを改めて実感でき、このことをチームで確認し合えたことが、大きな成果だと考えています。

今後も、この点を地区の皆さんと共有しながら活動ができればと考えています。



相談はこちらでお受けします♪

サポートはますか

電話/Fax：(88)5116

住所：旭が丘 8-15

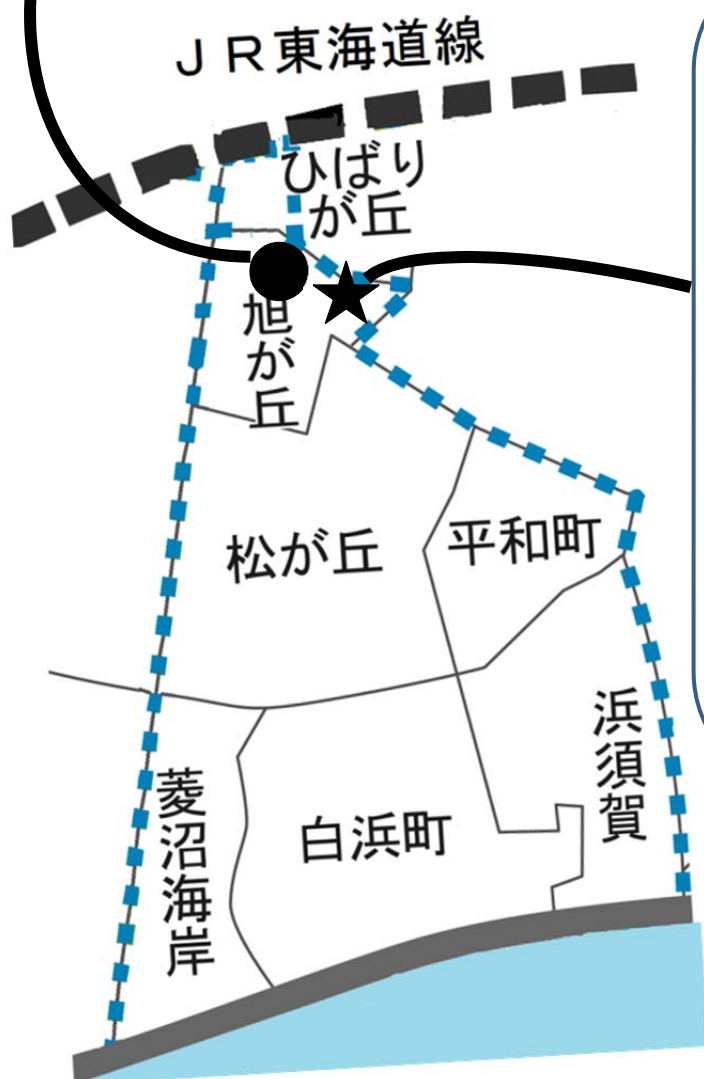


受付時間：火・金曜日 9:30～12:00

月・木曜日 9:30～12:00【電話受付のみ】

第1水曜日 9:30～12:00【福祉なんでも相談】

* 受付時間以外は留守番電話・Fax で受け付けます。



福祉相談室あさひ
(地域包括支援センターあさひ内)



電話：(58)6903

Fax：(84)6384

住所：旭が丘 6-11

受付時間：月～金曜日 8:30～17:00

* 資料編64～66ページ参照